

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年2月10日
【四半期会計期間】	第109期第3四半期（自 2022年10月1日 至 2022年12月31日）
【会社名】	セントラル硝子株式会社
【英訳名】	Central Glass Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員 清水 正
【本店の所在の場所】	山口県宇部市大字沖宇部5253番地 (上記は登記上の本店所在地であります。)
【電話番号】	(0836)22-5035
【事務連絡者氏名】	宇部工場管理課長 富本 靖典
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区神田錦町3丁目7番地1
【電話番号】	(03)3259-7111
【事務連絡者氏名】	経理課長 松岡 裕二
【縦覧に供する場所】	セントラル硝子株式会社本社事務所 (東京都千代田区神田錦町3丁目7番地1) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第108期 第3四半期連結 累計期間	第109期 第3四半期連結 累計期間	第108期
会計期間	自2021年4月1日 至2021年12月31日	自2022年4月1日 至2022年12月31日	自2021年4月1日 至2022年3月31日
売上高 (百万円)	151,757	125,096	206,184
経常利益 (百万円)	7,028	14,831	11,936
親会社株主に帰属する四半期純 利益又は親会社株主に帰属する 当期純損失 () (百万円)	4,226	21,737	39,844
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	7,273	19,009	35,629
純資産額 (百万円)	172,827	91,622	130,063
総資産額 (百万円)	287,354	243,289	290,696
1株当たり四半期純利益又は1 株当たり当期純損失 () (円)	104.44	570.57	984.58
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	58.9	35.6	43.4

回次	第108期 第3四半期連結 会計期間	第109期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自2021年10月1日 至2021年12月31日	自2022年10月1日 至2022年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	31.88	142.07

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第108期については1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は以下のとおりです。

(ガラス事業)

詳細につきましては「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項 (連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)」に記載しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更があった事項は、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

また、以下の見出しに付された項目番号は、前事業年度の有価証券報告書における「第一部 企業情報 第2 事業の状況 2 事業等のリスク」の項目番号に対応したものであり、文中の下線部分に変更箇所であります。

(4) 海外情勢の変化

海外において、予期しない法令又は規制の変更、政治及び社会情勢の変化、テロ、戦争、感染症、その他の要因による社会的混乱などにより予期し得ない事態が発生した場合、当該地域での事業活動のみならず、当社グループ全体の経営成績と財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に対する防疫と経済活動との両立が進み、景気の持ち直しの動きが見られるものの、為替の急激な変動や原燃材料価格の高騰、消費者物価上昇が続いており、依然として厳しい状況が継続しております。

世界経済は、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化及びロシアに対する各国政府の経済制裁の影響による原燃材料価格の高騰、欧米各国のインフレ圧力に対する金融引き締めによる景気悪化予測、中国のゼロコロナ政策による経済成長の鈍化と解除後の急激な感染拡大の経済影響など、先行きは非常に不透明な状況が続いております。

このような経済環境の下、当社グループは積極的な販売活動を展開いたしました。5月7日に株式譲渡を完了しました欧米自動車ガラス事業会社2社が、第1四半期連結会計期間の期首より連結対象から除外となった影響により、当第3四半期連結累計期間の売上高は125,096百万円と、前年同期比17.6%の減少となりました。

損益面につきましては、経営全般にわたる業務の効率化・合理化施策を推進し、加えて為替が円安に推移した影響もあり、経常利益は前年同期比7,802百万円増加の14,831百万円となり、当期に政策保有株式の売却を進めたため親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比17,510百万円増加の21,737百万円となりました。

尚、セグメント別の概況につきましては、「化成品事業」を主に化学品、ファインケミカル、肥料に区分して説明しておりましたが、従前の区分での売上規模が変動してきたため、第1四半期連結会計期間より、化学品にファインケミカルに区分していた精密化学品を合わせた素材化学品と、精密化学品以外のファインケミカルを医療化学品、電子材料、エネルギー材料に区分し、肥料を加えた区分に変更しております。この変更は、概況をより適切にご説明することを目的としており、報告セグメントの事業としての影響はございません。

セグメント別の概況

(ガラス事業)

建築用ガラスにつきましては、建築需要は前年同期並に推移しましたが、前年に実施しました構造改善の取り組みとして不採算取引等の見直し、販売・生産拠点の適正規模への縮小、集約を進めた事により、売上高は前年同期を下回りました。

自動車用ガラスにつきましては、国内は前年同期は半導体等の部品供給不足及び新型コロナウイルス感染症の流行による各自動車メーカーの生産調整の影響を受けていましたが、当期は第2四半期以降の部品不足改善に伴う各自動車メーカーの生産数量の増加に加え、原燃材料価格の高騰に対応し、製品価格の改定を実施したことから、売上高は前年同期を上回りました。海外につきましては、株式譲渡により欧米事業会社2社が当期期首より連結対象から除外となり、海外に区分する売上はなくなりました。

ガラス繊維につきましては、自動車分野において各自動車メーカーの減産の緩和や、原燃材料価格の高騰に対応し、製品価格の改定を実施したことから、売上高は前年同期を上回りました。

以上、ガラス事業の売上高は40,207百万円（前年同期比51.8%減）となり、損益につきましては1,763百万円の営業利益（前年同期比3,621百万円の改善）となりました。

(化成品事業)

素材化学品につきましては、ハイドロフルオロオレフィン製品における次世代発泡剤の販売が好調に推移するとともに、原燃材料価格の高騰に対応し、ハイドロフルオロオレフィン、機能材料、農薬関連各製品の製品価格の改定を実施したことから、売上高は前年同期を上回りました。

医療化学品につきましては、依然新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、医薬関連製品の販売数量に回復の兆しが見え、円安により輸出価格が上昇したことから、売上高は前年同期を上回りました。

電子材料につきましては、半導体向け特殊ガス製品の売上高は前年並に推移しましたが、前年の一部ガス製品の半導体用途以外での特需の反動と、レジスト材料などでユーザーの在庫調整があり、売上高は前年同期を下回りました。

エネルギー材料につきましては、EV市場の成長が続いており、リチウムイオン電池用電解液製品の販売が好調に推移し、原燃材料価格の高騰に対応し、製品価格の改定も実施したことにより、売上高は前年同期を上回りました。

肥料につきましては、一部品目で販売減がありました。原燃材料価格の高騰に対応し、製品価格の改定を実施したことにより、売上高は前年同期を上回りました。

以上、化成品事業の売上高は84,888百万円(前年同期比24.1%増)となり、損益につきましては10,733百万円の営業利益(前年同期比4,856百万円の増加)となりました。

(2) 財政状態

当第3四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べ、株式譲渡により欧米自動車ガラス事業会社2社が第1四半期連結会計期間の期首より連結除外となった影響などで、棚卸資産が7,989百万円、有形固定資産が29,287百万円減少したほか、政策保有株式の売却などで投資有価証券が11,226百万円減少したことなどにより、47,406百万円減少し243,289百万円となりました。

負債は借入の増加などで有利子負債が45,836百万円増加した一方、関係会社株式譲渡損失引当金が48,404百万円減少したことなどにより8,965百万円減少し151,667百万円となりました。

純資産は、利益剰余金が18,754百万円、為替換算調整勘定が2,983百万円増加した一方、自己株式の公開買付けなどで54,378百万円、政策保有株式の売却などでその他有価証券評価差額金が6,407百万円それぞれ減少したことなどにより38,440百万円減少し、91,622百万円となりました。また自己資本比率は7.8%減少し、35.6%となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等及び経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社の自己資本は、2022年9月21日から2022年10月27日を買付けの期間とする自己株式の公開買付けの実施により、大幅に減少しております。これに伴い、前事業年度の有価証券報告書の「第一部企業情報 第2事業の状況 1. 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」、及び「第一部企業情報 第2事業の状況 3. 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容 資本の財源及び資金の流動性についての分析」に記載しております「2022～2024年度 中期経営計画」の最終年度の経営目標のうち、ROE(自己資本利益率)につきましては、早期に達成が可能となることから、目標の修正を実施しております。また、株主総還元性向は引き続き、30%以上を維持することから、DOE(株主資本配当率)につきましても目標の修正を実施しております。修正後の目標につきましては以下の通りとなります。

中期経営計画(最終年度)の経営目標

指標	修正前	修正後
	2024年度 目標値	2024年度 目標値
ROE(自己資本利益率)	8%	12%
DOE(株主資本配当率)	2.4%	3.6%

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、4,071百万円であります。
なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、ガラス事業のうち、欧米自動車ガラス事業会社2社の株式譲渡等に伴い、連結従業員数が前連結会計年度末に比べ1,980名減少しております。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	171,903,980
計	171,903,980

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2023年2月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	42,975,995	42,975,995	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	42,975,995	42,975,995	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
2022年10月1日～ 2022年12月31日	-	42,975	-	18,168	-	8,075

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2022年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2022年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 3,941,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 38,953,700	389,537	-
単元未満株式	普通株式 81,095	-	-
発行済株式総数	42,975,995	-	-
総株主の議決権	-	389,537	-

【自己株式等】

2022年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
セントラル硝子株式会社	山口県宇部市大字 沖宇部5253	3,877,800	-	3,877,800	9.02
宇部吉野石膏株式会社	山口県宇部市大字 沖宇部5254-11	63,400	-	63,400	0.15
計	-	3,941,200	-	3,941,200	9.17

(注) 上記は、直前の基準日(2022年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしておりますが、自己株式の公開買付けの実施により2022年11月21日付で14,285,653株を取得したこと等に伴い、2022年12月31日現在所有している株式は18,227,300株であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について八重洲監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	28,216	28,507
受取手形、売掛金及び契約資産	49,000	49,332
商品及び製品	32,518	27,229
仕掛品	3,951	3,100
原材料及び貯蔵品	21,277	19,428
その他	6,124	5,122
貸倒引当金	185	163
流動資産合計	140,903	132,557
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	28,738	21,119
機械装置及び運搬具(純額)	39,894	23,393
土地	23,956	20,874
建設仮勘定	4,521	2,446
その他(純額)	3,941	3,930
有形固定資産合計	101,052	71,765
無形固定資産		
その他	1,317	999
無形固定資産合計	1,317	999
投資その他の資産		
投資有価証券	38,617	27,391
その他	8,925	10,712
貸倒引当金	120	136
投資その他の資産合計	47,423	37,967
固定資産合計	149,792	110,732
資産合計	290,696	243,289

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,105	23,235
短期借入金	7,649	52,999
未払法人税等	2,007	1,288
契約負債	2,422	1,570
賞与引当金	1,265	365
事業構造改善引当金	2,617	1,142
関係会社株式譲渡損失引当金	48,404	-
その他	26,921	29,490
流動負債合計	113,395	110,092
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	17,198	12,599
特別修繕引当金	3,826	2,304
環境対策引当金	38	-
退職給付に係る負債	5,388	5,367
その他	785	1,302
固定負債合計	47,237	41,574
負債合計	160,632	151,667
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,168	18,168
資本剰余金	8,109	8,109
利益剰余金	88,465	107,220
自己株式	6,402	60,780
株主資本合計	108,340	72,717
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13,725	7,317
繰延ヘッジ損益	286	47
為替換算調整勘定	2,863	5,847
退職給付に係る調整累計額	868	749
その他の包括利益累計額合計	17,744	13,962
非支配株主持分	3,977	4,942
純資産合計	130,063	91,622
負債純資産合計	290,696	243,289

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	151,757	125,096
売上原価	121,641	93,162
売上総利益	30,116	31,934
販売費及び一般管理費	26,097	19,436
営業利益	4,018	12,497
営業外収益		
受取利息	20	188
受取配当金	755	616
持分法による投資利益	643	969
為替差益	221	1,007
その他	2,713	1,697
営業外収益合計	4,354	4,479
営業外費用		
支払利息	247	221
アドバイザー等費用	-	458
その他	1,097	1,465
営業外費用合計	1,344	2,145
経常利益	7,028	14,831
特別利益		
固定資産売却益	512	3,059
投資有価証券売却益	128	8,747
事業譲渡益	326	-
特別利益合計	968	11,807
特別損失		
固定資産売却損	-	65
投資有価証券売却損	-	502
投資有価証券評価損	11	-
事業構造改善費用	1,411	1,864
関係会社清算損	-	0
特別損失合計	1,423	2,432
税金等調整前四半期純利益	6,573	24,206
法人税等	1,915	1,718
四半期純利益	4,658	22,487
非支配株主に帰属する四半期純利益	431	750
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,226	21,737

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	4,658	22,487
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,732	6,409
繰延ヘッジ損益	123	238
為替換算調整勘定	4,044	2,366
退職給付に係る調整額	18	118
持分法適用会社に対する持分相当額	444	922
その他の包括利益合計	2,614	3,478
四半期包括利益	7,273	19,009
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,701	17,955
非支配株主に係る四半期包括利益	571	1,053

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間において、カーレックスガラスアメリカ,LLC、及びカーレックスガラスルクセンブルク.S.Aの全株式(持分)を譲渡したことにより、連結の範囲から除外しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

当社及び一部の連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(四半期連結損益計算書関係)

事業構造改善費用

事業構造改善費用の内訳は以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
固定資産売却損	240 百万円	1,336 百万円
拠点閉鎖費用等	896	306
資産廃棄損	248	125
債権放棄損	-	53
事業撤退損	26	42
計	1,411	1,864

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
減価償却費	9,069百万円	6,758百万円

(株主資本等関係)

1 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年5月24日 取締役会(注)1	普通株式	1,517	37.50	2021年3月31日	2021年6月8日	利益剰余金
2021年11月1日 取締役会(注)2	普通株式	1,517	37.50	2021年9月30日	2021年12月1日	利益剰余金

(注)1. 配当金の総額には、関係会社に対する配当金1百万円を含めていません。

2. 配当金の総額には、関係会社に対する配当金1百万円を含めていません。

2 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月24日 取締役会(注)1	普通株式	1,517	37.50	2022年3月31日	2022年6月8日	利益剰余金
2022年11月1日 取締役会(注)2	普通株式	1,464	37.50	2022年9月30日	2022年12月1日	利益剰余金

(注)1. 配当金の総額には、関係会社に対する配当金1百万円を含めていません。

2. 配当金の総額には、関係会社に対する配当金1百万円を含めていません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年5月11日開催の取締役会決議に基づき、2022年5月12日から2022年9月20日までの期間に自己株式1,401,000株の取得を行いました。また、2022年9月20日開催の取締役会において、会社法第459条第1項の規定による当社定款の規定及び同法第156条第1項の規定に基づき、自己株式の取得及びその具体的な取得方法として自己株式の公開買付けを行うことを決議し、2022年11月21日付で14,285,653株を取得しました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、単元未満株買い取りによる増加を含め、自己株式が54,378百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が60,780百万円となっております。

(セグメント情報等)

- 1 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	ガラス事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	83,370	68,387	151,757	-	151,757
セグメント間の内部 売上高又は振替高	9	742	751	751	-
計	83,379	69,130	152,509	751	151,757
セグメント利益又は損失() (営業利益)	1,858	5,877	4,018	-	4,018

(注) 調整額は、セグメント間取引消去であります。

- 2 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	ガラス事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	40,207	84,888	125,096	-	125,096
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	744	744	744	-
計	40,207	85,633	125,840	744	125,096
セグメント利益(営業利益)	1,763	10,733	12,497	-	12,497

(注) 調整額は、セグメント間取引消去であります。

(企業結合等関係)

(事業分離)

1. 事業分離の概要

(1) 分離先企業の名称

Atlas Holdings LLC (以下、「Atlas 社」) が保有する投資ファンドが米国に設立した特別目的会社 ACR II Glass Holdings Inc. (以下、「ACR INC 社」) 及び ACR II Glass Holding B.V. (以下「ACR BV」社)

(2) 分離した子会社の名称及び事業の内容

子会社の名称: カ - レックスガラスアメリカ, LLC (以下、「CLXA」) 及びカーレックスガラスルクセンブルク S.A. (以下、「CLXL」)

事業の内容: フロートガラスの製造、及び自動車用ガラスの製造、販売

(3) 事業分離を行った主な理由

当社はガラス事業を構造改善事業と位置付け、抜本的な構造改善に取り組んでまいりました。

今般、当社海外自動車ガラス事業を行う CLXA 及び CLXL の全株式(持分)を ACR INC 社と ACR BV 社に譲渡することが、当社、CLXA、CLXL 及び Atlas 社にとって最善の選択であると判断いたしました。

(4) 事業分離日

2022年5月7日

(5) 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金等の財産のみとする株式譲渡

2. 実施した会計処理の概要

(1) 移転損益の金額

前連結会計年度に見積額を関係会社株式譲渡損失引当金繰入額として48,404百万円計上しております。第1四半期連結会計期間に実績額と見積額の差額を認識しておりますが、影響額は軽微であります。

(2) 会計処理

「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 2013年9月13日) 及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日) に基づき処理を行っております。

3. 分離した事業が含まれていた報告セグメントの名称

ガラス事業

4. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

第1四半期連結累計期間の期首をみなし売却日としているため、当第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書には、分離した事業に係る損益は含まれておりません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(単位:百万円)

報告セグメント	主要な事業	外部顧客への売上高
ガラス事業	建築用ガラス	21,673
	自動車用ガラス	56,307
	ガラス繊維	5,387
	その他	2
	計	83,370
化成品事業	素材化学品	15,771
	医療化学品	11,002
	電子材料	15,061
	エネルギー材料	16,046
	肥料	7,327
	その他	3,177
	計	68,387
合計		151,757

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(単位:百万円)

報告セグメント	主要な事業	外部顧客への売上高
ガラス事業	建築用ガラス	17,007
	自動車用ガラス	17,397
	ガラス繊維	5,800
	その他	2
	計	40,207
化成品事業	素材化学品	17,879
	医療化学品	13,196
	電子材料	14,419
	エネルギー材料	26,700
	肥料	9,443
	その他	3,249
	計	84,888
合計		125,096

(注) 収益の分解情報につきまして、「化成品事業」の主要な事業を化学品、ファインケミカル、肥料にて表示しておりましたが、従前の区分での売上規模が変動してきたため、第1四半期連結会計期間より、化学品とファインケミカルに区分していた精密化学品を合わせた素材化学品と、精密化学品以外のファインケミカルを医療化学品、電子材料、エネルギー材料に区分し、肥料を加えた区分に変更しております。なお、前第3四半期連結累計期間の収益の分解情報については、変更後の区分方法により作成していません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
1株当たり四半期純利益	104円44銭	570円57銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	4,226	21,737
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	4,226	21,737
普通株式の期中平均株式数(千株)	40,468	38,097

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

決算日後の状況

特記事項はありません。

配当について

2022年11月1日開催の取締役会において、当期中間配当を次のとおり決議しました。

- | | |
|-----------------------|------------|
| (イ) 中間配当による配当金の総額 | 1,466百万円 |
| (ロ) 1株当たりの金額 | 37円50銭 |
| (ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 | 2022年12月1日 |
- (注) 2022年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録質権者に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月9日

セントラル硝子株式会社
取締役会 御中

八重洲監査法人
東京都千代田区

代表社員 公認会計士 齋藤 勉
業務執行社員

代表社員 公認会計士 渡邊 考志
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 西山 香織

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているセントラル硝子株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、セントラル硝子株式会社及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。